

MESSAGE

岐阜大学学長メッセージ

岐阜大学は地域に軸足を置き、地域の中核となる大学を目指し、自治体や企業との連携により、地域の課題解決に貢献するイノベーションを起こしていくことをミッションとしています。

脱炭素社会の実現に向けて、東海国立大学機構では、「カーボンニュートラル推進室」のもと、社会と連携してカーボンニュートラル達成を目指し取り組んでいます。大学キャンパスでも「省エネアクト for ゼロカーボンキャンパス」のローガンのもとに、省エネ・節電行動を推進しています。

岐阜大学では、2009年に「環境ユニバーシティ」を宣言し、全学で環境マネジメントシステムISO14001の認証を取得しています。その運用に不可欠となる内部環境監査は、教職員だけでなく、学生の参画による協働で行われており、岐阜大学全体の環境意識が醸成されていることを自負しています。また、2024年4月には「環境社会共生体研究センター」を開設しました。本センターは、流域圏科学研究センター、地域環境変動適応研究センター、脱炭素・環境エネルギー研究連携支援センターの三つの組織を融合・発展的改組し、新たに設置したものです。これまで培ってきた環境研究分野の成果をさらに発展させ、地球温暖化の緩和・気候変動への適応、生態系サービスの持続可能な利活用など、環境課題解決に必要な専門知・科学知を提供し、ステークホルダー



と共に解決策を共創していくことを目指しています。

みなさん一人ひとりが地球に目を向けて、カーボンニュートラル、環境問題について一緒になって考えてほしいと思います。岐阜大学は環境に関する教育・研究のさらなる充実を図り環境課題の解決に貢献していきます。

岐阜大学 学長
吉田 和弘

名古屋大学総長メッセージ

名古屋大学学術憲章では、名古屋大学の使命を「人々の幸福に貢献すること」とし、人間性と科学の調和的発展を目指すための高度な研究と教育を実践する、と定めています。人々が幸福になるためには、現代社会の抱える諸課題を解決していかなければなりません。現代社会における喫緊の課題の一つは環境問題です。なかでも、地球温暖化が最も深刻な問題であることは衆目の認めるどころです。地球温暖化がつかないスピードで進行していることは、地球に住む全ての生命にとってとてつもない脅威となっています。今、人類は温暖化を食い止めるためにその叡智を結集しなければなりません。

名古屋大学においても、カーボンニュートラル達成と脱炭素社会構築のため、未来社会創造機構のもと「脱炭素社会創造センター」を2022年に設置いたしました。ここでは、「地球の危機」に対して名古屋大学の「知」を総動員し、最先端研究や文理融合・超学際による課題解決に取り組み、次世代の新たな価値と未来社会の創造を目指しています。また、2件採択されているCOI-NEXT（共創の場形成支援プログラム）のうち、変環共創拠点では、「消費から変環へ」と題し、官民を巻き込んで環境に優しい持続可能な社会の構築を目指します。

しかし、何より大事なのは身近なところから構成員の皆が環境問題、地球温暖化問題に取り組んでいく姿勢だと考えます。そこで、キャンパスのカーボンニュートラル化に向けた



取組、「省エネアクト for ゼロカーボンキャンパス」の活動では、目標値を定めて地道な取組により省エネ活動を継続しています。また、節電について“標語（キャッチコピー）”コンテストを開催するなど、構成員の省エネ意識の向上を目指した取組も実施しています。

名古屋大学はこれからも、東海国立大学機構の一員として岐阜大学とのシナジーを最大化しながら、社会の課題解決に向けて邁進してまいります。

名古屋大学 総長
杉山 直